

独立ITコーディネータとしての 決意・活動・心得について

ITコーディネータ **阿部 満**



ブリッジ・リサーチ&コンサルティング代表。ITコーディネータ・経営士。メーカー系IT企業の営業職後、事業開発部長、経営企画部長、コンサルティング部長を経て、ITコーディネータ協会に勤務。2009年に独立し、中堅・中小企業とIT系企業に対してのコンサルティング活動、全国各地セミナー・研修講師活動、執筆活動を行う。講演、執筆多数。

この度はITコーディネータ (ITC) 協会からのご依頼で機関紙架け橋でこのような形で皆さんにお話することとなりました事を光栄と感じております。

1. ITC独立への決意

私は大手メーカー系IT系企業に約15年勤務し、その後、ご縁がありまして、ITC協会の職員になった後、独立ITCの道を選びました。そこで、どのような経緯で独立ITCとなったかを初めにお話してみましよう。

大手メーカーIT系企業ではITツールを主体に販売する営業に長年従事し、その後、スタッフ部門である事業開発部長、経営企画部長に従事していました。

このような経緯の中で私は、一つの疑問がありました。それは、ITCとして「真に役立つIT投資を行うこととは一体何だろう?」「自社のITツールは良いものだが、投資が非常に掛るIT投資をして頂いて果たして本当に当初の目的通りになっているのか?」「私は本当にお客様の要望を叶える役目になっているだろうか?」悩んだ時期がありました。

そのような悩みを持ちながらも勤務先のITツールを販売する事を行わなければならない葛藤の中で、このままでは、自分はお客様に対して単なる売り子で一生終わってしまうのではないかと感じていました。

そんな時に、ITC制度と出会いました。私は即、ITCを取得し、コンサルティング部を作りその責任者として活動しました。

ITCを取得した後は、これによってITCプロセスガイドライン(以下PGL)に従って活動ができると思いました。しかし現実とは違っていたのです。私にとっては名刺にITCとして記載されていれば、お客様は自分の価値をわかってくれるだろう。経営者に対して経営課題などもインタビューすれば教えてくれ、経営課題を解決できる真のIT投資を支援できるようになると考えました。

しかし、お客様の反応は冷やかです。それは後でわかったことなのですが、お客様は名刺の肩書きなど全く興味はなく、提案されたITツールと他社のITツールのメリットの違いや価格の差は?的な感覚がその後も同様に続いてしまったのです。

2. 独立ITCの活動

約1年前にようやく理想とする独立ITCになり始めて、その後の活動のメインはPGLに準拠した活動となりました。ただし、PGLの原理原則論はきちんと守るように努力していますが全てのお客様で経営戦略、IT戦略、調達、導入、活用のフェーズが進むわけではありません。

それはお客様一社一社毎に様々な経営上の課題やIT環境の状態によって変化してきます。

では、PGLが使えないのか?との議論になりそうですが私はPGLとは普遍的なIT経営を実現する原則論であって、それをお客様に都合合わせ上手く使いこなすことこそITCの独自性と差別化要素だと思っています。

さて、独立後の活動では全ての時間をITC活動に充てている訳ではなく、執筆活動や講演活動、はたまた、IT経営を世に浸透させたいとの思いでインタビューなどに積極的に応対しています。そのバランスを保ち全ての活動が円滑に進むことこそ、私が考える独立ITCの醍醐味だと感じています。

3. 独立ITCとしての心得

最後に独立ITCを今後目指す方へ、私からの応援と志についてなどをお話していきましょう。これからたとえ話をします。

若い修行僧が、老師に「地獄というところは、どんなところなどですか」を尋ねました。老師は「地獄には、大きな釜の中に、うまそうなうどんが湯気をたてて煮えている。ところがそれを食べるには、長さが一メートルほどもある長い箸を使うしかない」地獄は「皆お腹が空いているので、その長い箸でうどんを競って食べようとする。しかし、箸が長すぎて、うどんを掴むことができても、口に入れることができない。皆、自分が真っ先に食べようと、狂ったようになり、ケンカを始め、しまいには、うどんはあちこちに散らばってしまい誰も食べることができない」

若い修行僧は「それでは極楽はどんなところですか」と尋ねました。

老師は極楽とは人々はどうどんを長い箸でつまむと、釜の向こう側にいる人に「どうぞこのご馳走を先に召し上がってくださいとすすめる。すると釜の向こうにいる側の人は、それを有り難く受け、「どうぞご馳走さまでした。今度はあなたにお返しをさせてください」と自分の箸でうどんをとってすすめる。そこでは全員が美味しいうどんを食べることが、つまり、永遠の祝福を楽しむことができる。(稲盛和夫著 成功への情熱より)

私はこの極楽と地獄の差にある考え、つまり利他(他人を敬い、貢献しようとする心)こそ、独立ITCとして活動する際の最も重要な志だと考えています。

ITCの資格だけでは独立できないと言った声を聞きます。私はそれを聞くたびに非常に悲しい気持ちになります。

独立を選ぶ、選ばないは個人の自由で、それを否定するつもりは毛頭ありません。

しかし、私が経験したことでお話しすれば、独立したいとの考えは、

自分の生きる道に正直に生きようとする心の芽生えです。

神がお作りになった万物には時間だけが公平に与えられています。

その時間をIT経営で本当に人の役に立ちたいと考え、私は独立しましたが、今も尚、全く後悔などもなく、やりがいと生きがいを持っています。

独立していない方々は独立したいと思った時こそチャンスと考え、是非、夢を果たして頂ければと思います。

その先に見える道は独立したものでしかわからない自分自身の理想の道が見えてくると思っています。

阿部 満 氏の著書



IT 経営可視化戦略
(産業能率大学出版部)



IT 経営実践の知識
(同友館)
ITコーディネータ協会 研修教材図書認定